NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

サポーター（ハンドラー）・適性試験規定

2023 年 5 月改訂

NPO 法人 災害救助犬ネットワーク
出動部、SAR 部

本試験は、選抜する目的ではなくメンバーの意識、能力向上の機会として実施するものである。
現場に出れば捜索作業でチームを動かす作業も担うためリーダーシップも求められるため、
冷静沈着、客観的な行動、判断ができるように多くの経験を積む機会として位置付けている。
DRDN の出動の観点から、犬の適性とは別に出動する人（サポーター並びにハンドラー）が現場活動で必要になる知識、装備、作業等に関しての実務の最低限の適性度を審査するものである。
出動するために必要な項目であるため、災害救助犬の捜索犬認定審査を受験するためには合格していなければならない。また、出動する人は受験、合格する必要があるが、合格していない場合はサポーター以外の役割として出動することを制限するものではない。
随時受験（事前申し込み）できるように訓練会において開催し、出動部、SAR 部で審査する。

■審査項目

1. ロープ

自己の安全確保、現場作業の観点から、必要最低限の結び方を習得できているか。
① ボーライン・ノット（もやい結び）
② エイト・ノット（2重8の字結び）
③ インクノット（グローブヒッチ、巻き結び）
④ フィッシャーマンズ・ノット（テグス結び）
⑤ フリクションヒッチ（プルージック・クレイハイスト）

2. 装備

出動に関する個人作業、行動装備（宿泊以外の装備）
例：必要最小限の携行できているか。（雨天傾向なら合羽、長時間なら非常食等）
※審査用の装備規定などはなく、作業に対応して携行しているか。
※メンバーページ出動装備品参照

3. 地図

国土地理院 25，000 分の 1 をから場所、地形等が読めるようになっているか。
例：地図から現在地を確認できるか。目的地、帰路までの距離、時間を把握できているか。

4. 無線

特定小電力で、無線交信に関する基本知識、要領を習得しているか。
例：簡潔明瞭に交信できているか。　必要な情報交換しているか。機器をチェックしているか。

NPO法人 災害救助犬ネットワーク
DISASTER RESCUE DOG NETWORK

5. 評価票

服装装備	現場や活動に適している服装か		
	安全を考慮した装備をしているか(PPE)		
	携行品は想定外の作業を考慮しているか		
無線	無線扱いの基本知識はあるか		
	無線の使用に際し問題はないか		
	簡潔、明瞭、適切なやり取りか		
情報	自ら情報収集しているか		
	記録しているか		
捜索作業	得た情報から自ら捜索プランをもっているか		
	犬の行動、反応を客観的に分析できているか		
	現場コミュニケーションは取れているか		
	人命救助に取り組んでいる行動であるか		
報告・連絡・相談	捜索開始、移動時の連絡、報告はしているか		
	共有すべき情報、現況の報告はしているか		
	現在地の連絡は適切か(本部からの質問1)		
	風向きを理解しているか(本部からの質問2)		
	現況の連絡報告は適切か(本部からの質問3)		
	時間管理はできているか		
	行動は冷静で大局的、客観的か		
	現場で一緒に活動できるか、したいか		

α	活動に対する姿勢		チームの期待度		訓練に関する練度	

技能	ロープ		
	地図		
	無線		

総合評価	基本点	α点	合計点	技能	ランク評価

V	SG	G	B	M
-96	95-90	89.5-80	79.5-70	69.5-

※以上の審査項目をクリヤーできるように訓練会で習得する機会、指導は出動部で設けるが、
まずは自らが、何をすべきか、どのようにするべきかを考えることが望まれる。

■審査方法

審査は、実際の捜索作業をイメージして、捜索訓練をする犬、ハンドラーのサポーターとして帯同し、必要な判断、助言・指示を行い、適切な連絡、報告を本部に行う。
とくに試験用の設定は行わず、通常の訓練(中級以上のブラインド捜索訓練)に審査を組み込み、災害出動、及び行方不明者捜索にサポーターとして携わり作業を遂行する。
本部より出発する際に、必要な作業の留意点の指示を受ける。
試験用のマニュアルはなく、また現場でも絶対的な作業基準を設けていることもないので、評価票に沿った審査を行うので、その要点を押さえた受験者の臨機応変な対応を審査評価する。
※審査員2名(出動部、SAR 部)、本部役1名
※審査中は本部以外、アドバイス、指示はしない。
例えば、訓練犬が早期に発見に至った場合など、十分に評価できなかった時は、審査員の判断で2頭目でも引き続き審査を継続する。
審査は訓練会で行っている範囲で行うため、その範囲を実働現場と想定して作業を行う。

■合否

合格は 70 点以上で合格とする。

＊合格　評価 B:70～79.9、G:80～89.9、SG:90～95.9、V:96～100

＊資格　合格者は現場作業が可能となるが、暫定活動範囲は4段階とする。

サポーターC(現場活動、ハンドラーのサポーターとして活動)
サポーターB(捜索チームのリーダー、サポーターとして活動)
サポーターA(複数のチーム捜索指揮、サポーターとして活動)
サポーターS(現場指揮、本部責任者として活動)

＊不合格　Ḿ:～69.9

※不合格は、能力よりも経験不足が要因と思われ、訓練会での経験が望まれる。

※再試験義務

出動部、SAR 部で再審査が必要された場合は、次の開催日に再受験をしなければならない。

DRDN におけるサポーターは、捜索作業を行う際に災害救助犬に帯同し、犬に集中するハンドラーを補佐し、客観的に災害救助犬の行動観察、安全管理、本部との連絡などの役割を持つ。
複数の災害救助犬に帯同する場合は、捜索チームの現場リーダーとして行動管理を行う。
チーム編成における権限は、本部→捜索隊長→サポーター→ハンドラーの統制系統となる。
また、ハンドラーが犬を休ませる場合にはサポーターを務めたり、他の団体との協同、連携においては当会が全員サポーターになった事例もあり、例え災害救助犬のハンドラーであっても現場チームの一員であり、その作業は多岐に亘り、必要な作業は臨機応変に出動メンバーで協力、補完しなければならないと考えている。※DRDN 現場指揮システム参照

以上